

OpenLM コンポーネントをセキュリティで保護するように Identity Serviceを構成する

Identity Serviceサービスをインストールしない場合は、セキュリティなしですべての v.21 コンポーネントにアクセスできます。Identity Serviceをインストールし、セキュリティ構成を設定する場合、すべてのコンポーネントにアクセスするにはClient ID とSecret Keyが必要です。セキュリティの構成には 2 種類あります。

1. Identity Service UIでのURL設定

- *OpenLM Server
- *DSS
- *Reports Scheduler
- *ServiceNow

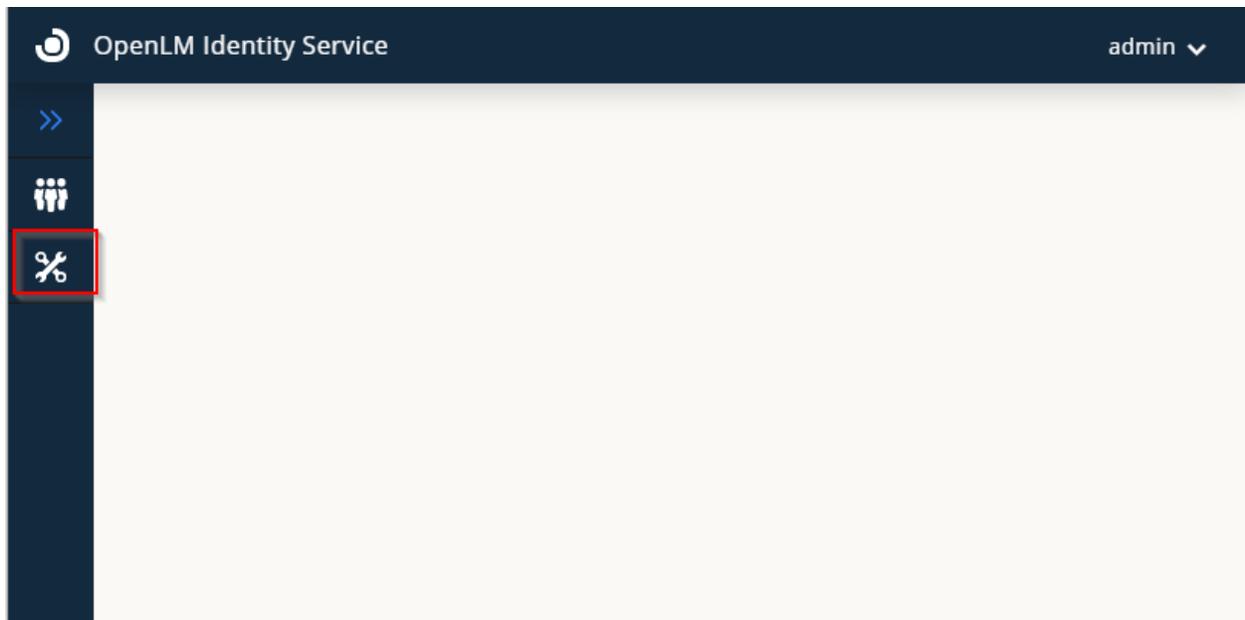
URLを設定することで、ユーザーがブラウザで URL を開こうとすると、ログイン資格情報が要求されます。Client ID とSecret key は、appsettings.jsonやプロパティファイルなどの構成ファイルに挿入されます。セキュリティモードで OpenLM Server URL を設定したら、OpenLM Serverに接続されているすべてのコンポーネントをセキュリティモードで設定する必要があります。

2. EasyAdminで認証ファイルを発行

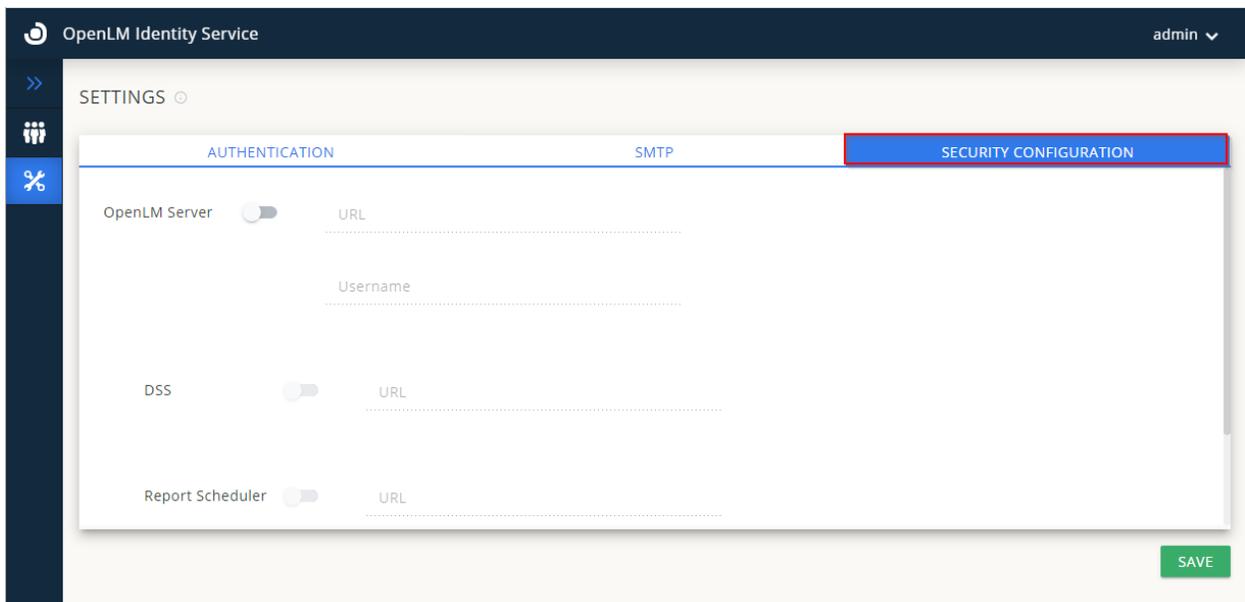
- *Broker
- *DSA
- *Agent
- *End User Services (Personal Dashboard)
- *Applications Manager
- *Router
- *OpenLM Server API

Identity Service UIでセキュリティモードでOpenLM Serverが設定されたら、Authorization.jsonファイル(Client IDとSecret Key)を、接続された各コンポーネント用にEasyAdminから発行する必要があります。次に、認証ファイルを各コンポーネントにインポートするか、インストールフォルダの下にファイルを配置します (コンポーネントによって異なります)。

セキュリティで保護された環境で動作するように OpenLM コンポーネントを構成するには、「Identity Service」ウィンドウで「設定」アイコンを選択します。



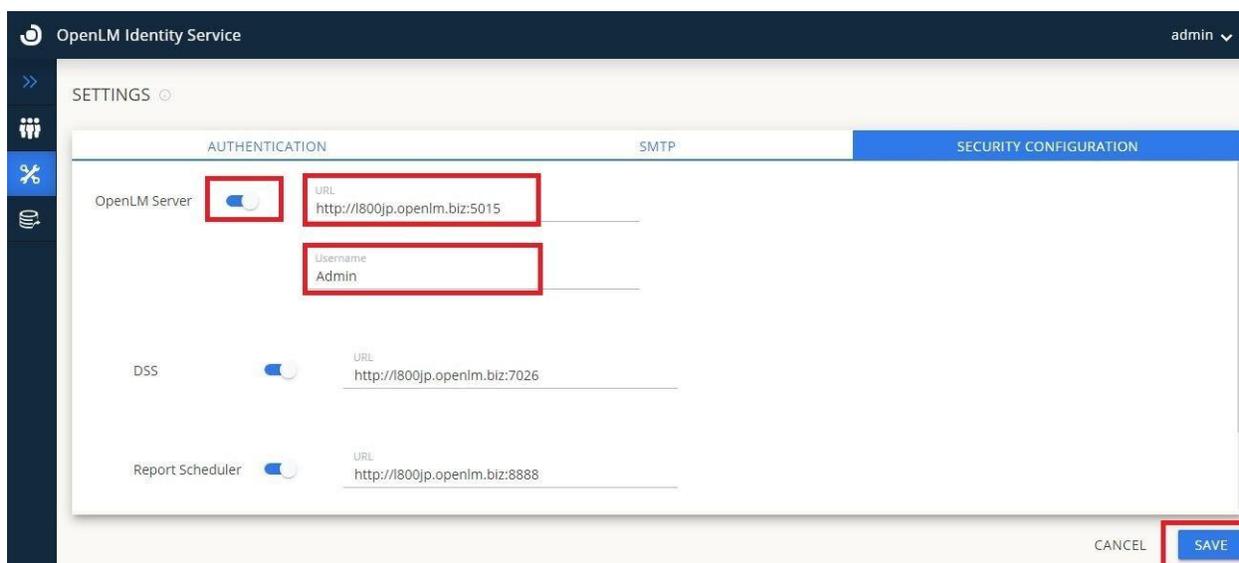
[セキュリティの構成]タブを選択します。



さらに、各コンポーネントを v.21 にアップグレードし、Identity Serviceでセキュリティ保護された環境で動作するように構成します。

セキュリティで保護された環境で動作するように OpenLM Serverを構成する

1. Identity Service UI で[設定]タブを選択し、[セキュリティの構成] を選択します
2. [OpenLM Server] トグルスイッチをオンにします。
3. OpenLM Server マシンの FQDN を指定します(例: <http://FQDN:5015>)
4. ユーザー名を入力します (デフォルトではAdmin)
5. [保存] をクリックします。

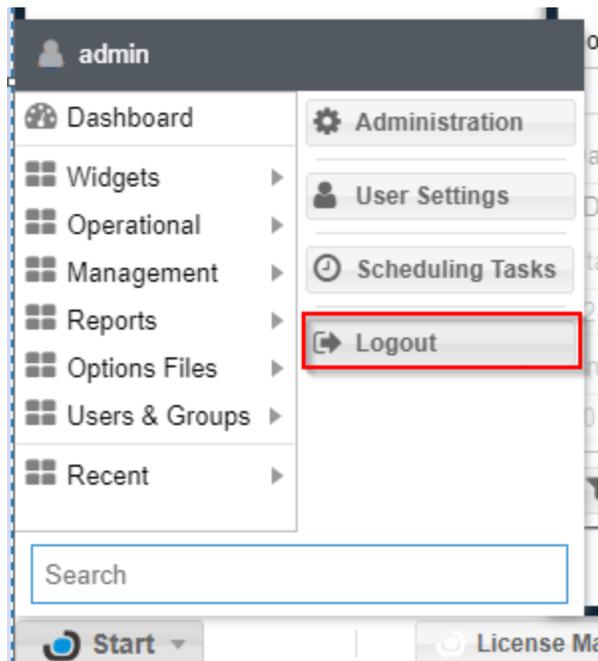


注意: これにより、**appsettings.json**ファイルでセキュリティ、Client ID、および**Secret Key**が有効になります。C:\Program Files\OpenLM\OpenLM Server\bin

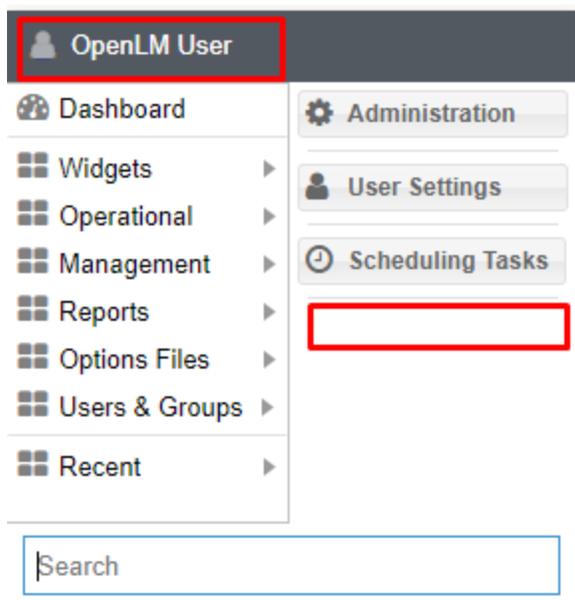
```
83     "CloudMode": false
84   },
85   "Auth": {
86     "EnableSecurity": "True",
87     "Authority": "https://1800jp.openlm.biz:5000",
88     "Audience": "openlm.server.api",
89     "ClientId": "openlm.server.client",
90     "ClientSecret": "05fb09a1-4f2e-440f-a824-b9bac6cc64e9",
91     "ClientScope": "openlm.cloud.scope openlm.etlmanager.scope IdentityServerApi openlm.dss.scope",
92     "TokenEndpoint": "/connect/token"
93   }
94 }
```

6. Windows「サービス」に移動し、Identity ServiceとOpenLM Serverの両方のサービスを再起動します。サービスの再起動は、新しいClient ID とSecret Keyを使用するために必須です。

EasyAdminでアカウントを含めてログアウトボタンを確認できるようになりました。



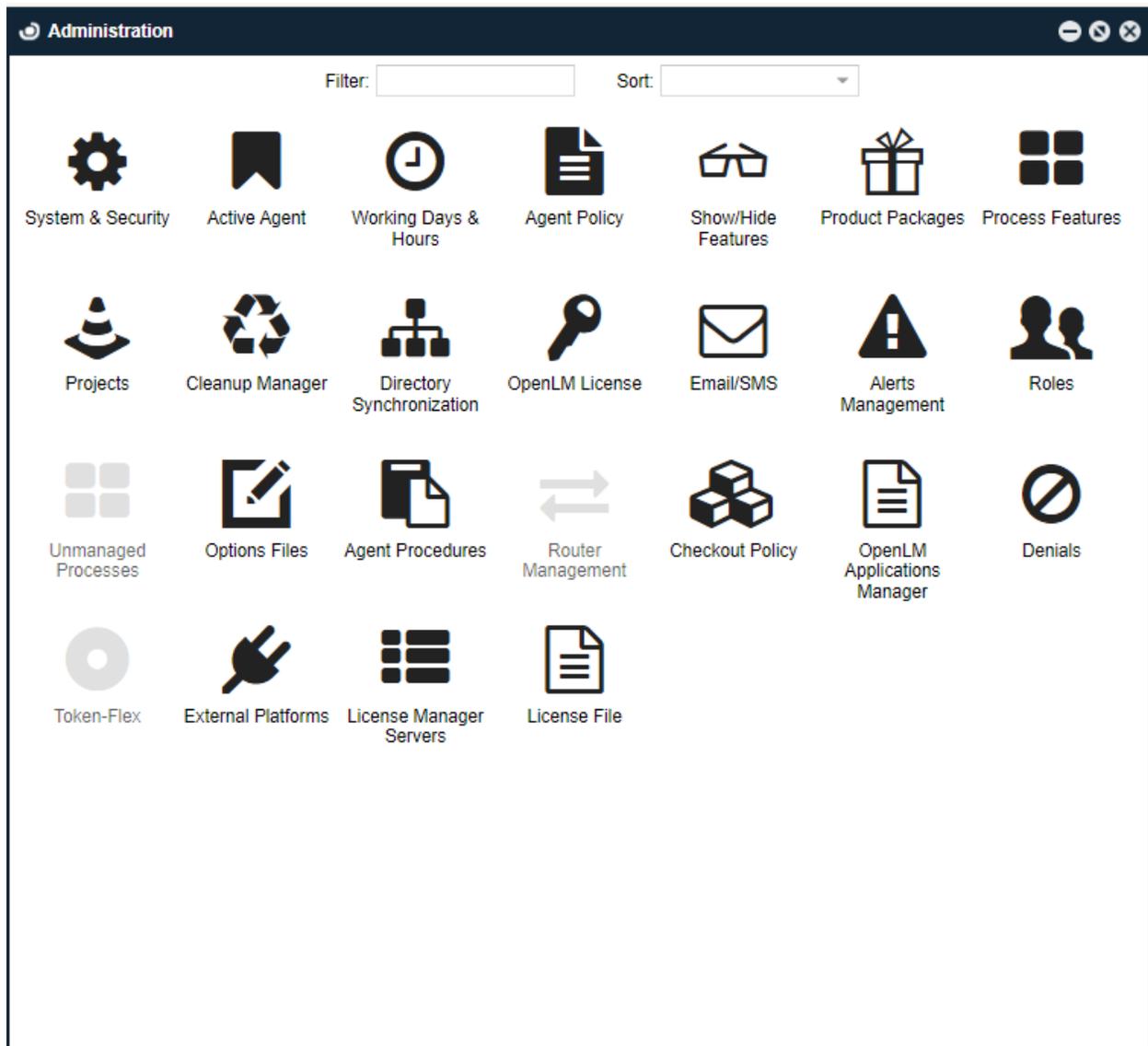
代わりに、OpenLM Serverのトグルスイッチをオフにする(非セキュリティモード)と、ログアウト/インボタンが消えます。誰でもEasyAdminにアクセスできます。

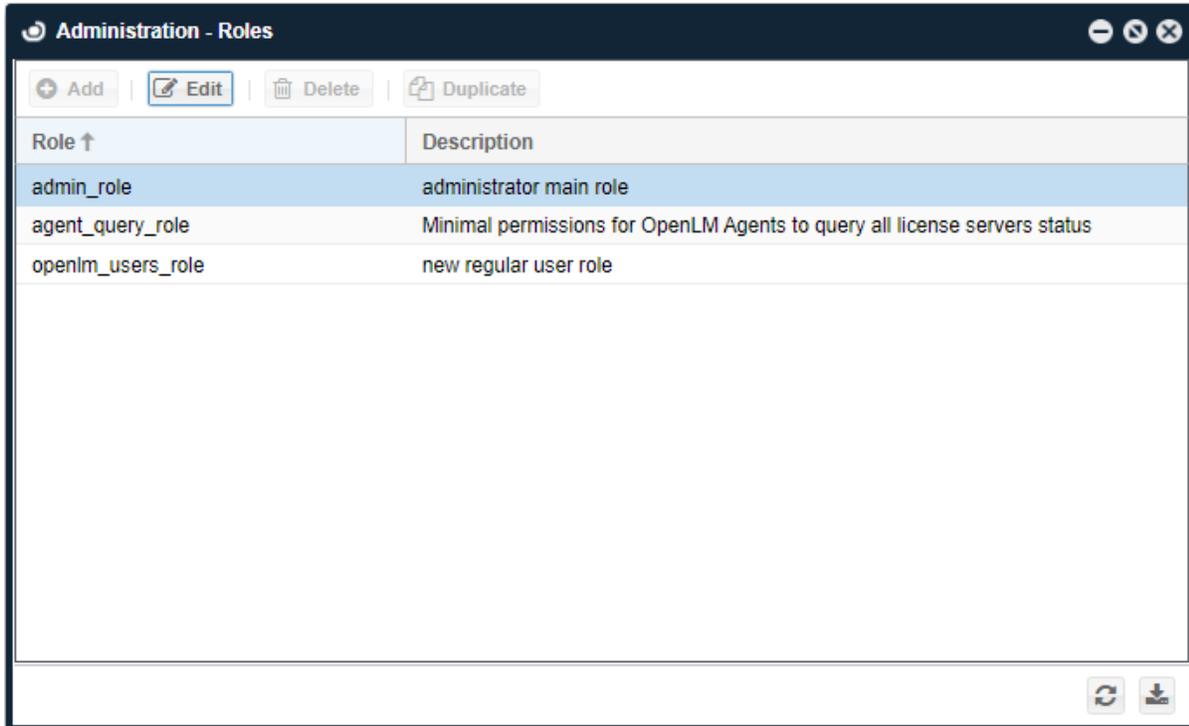


警告: OpenLM Serverでセキュリティモードをオン/オフするたびに、変更を反映するためにWindows サービスで OpenLM Serverサービスを再起動する必要があります。

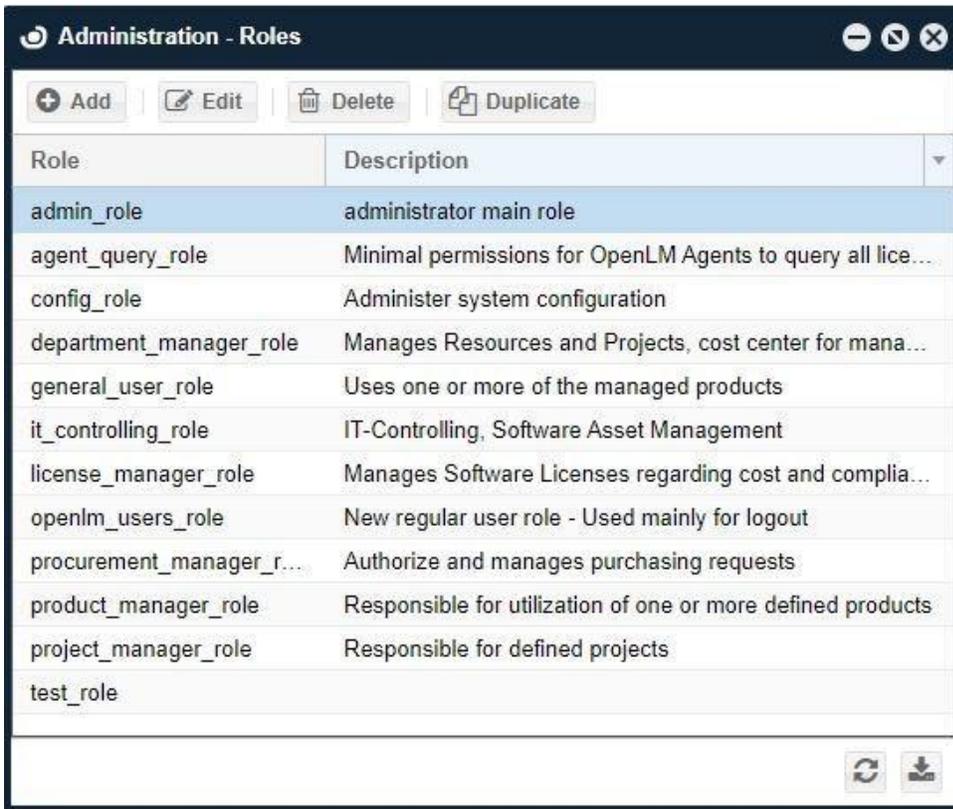
Identity ServiceとRole&Permissionの関係性

ライセンスファイルにRole&Permissionがない場合、OpenLM Serverにはユーザに割り当てる基本的なロールのみが存在し、編集のみ可能です(追加、削除、複製不可)。





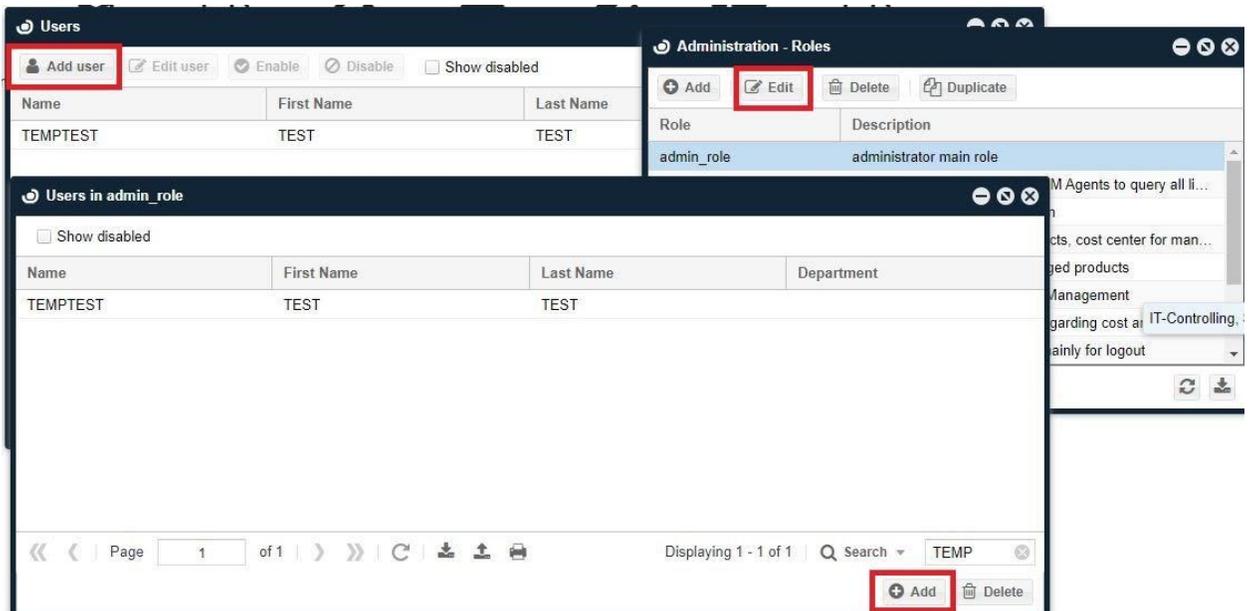
しかし、ライセンスファイルにRole & Permissionがある場合は、以下のようにロールの全範囲と機能が提供されます。



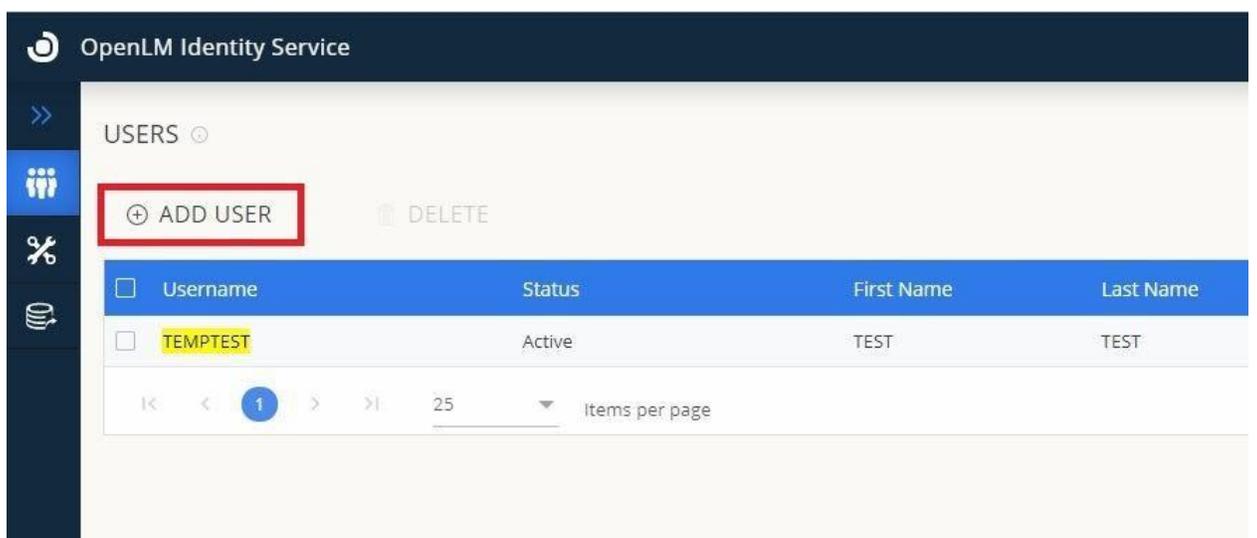
完全な機能をお望みの場合、sales@openlm.com でセールスと相談してください。

最初のデフォルトアカウントは、Identity ServiceのAdminです。しかし、新しいユーザーを作成する場合は、次の手順に従ってください。

1. Easyadminでユーザーアカウントを作成します。
2. EasyAdminにログインできるように[ロールをユーザに割り当てます](#)。



3. Identity Serviceで同じユーザーを作成します。



← EDIT USER ○

Username
TEMPTEST

Status

Email
fumichika.yoshida@openl...

First Name
TEST

Last Name
TEST

Country
Argentina

Phone

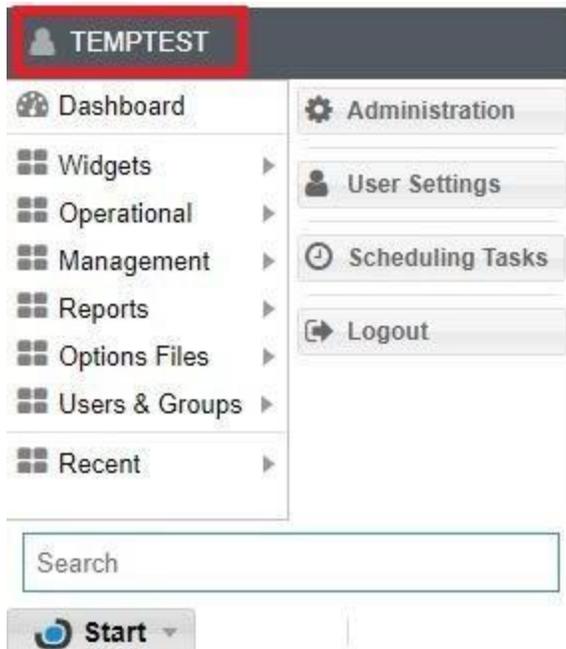
Reset Password >

System administrator

SAVE

注意: ユーザーが Identity Service の設定を編集できるようにする場合は、システム管理者のトグルボタンを有効にします。

4. ユーザー アカウントで EasyAdminにログインしてください。



今のところ、EasyAdminと Identity Service各 UIで同じユーザーを手動で追加する必要があります。Identity Service UIのシステム管理者のみがパスワードを変更できます。

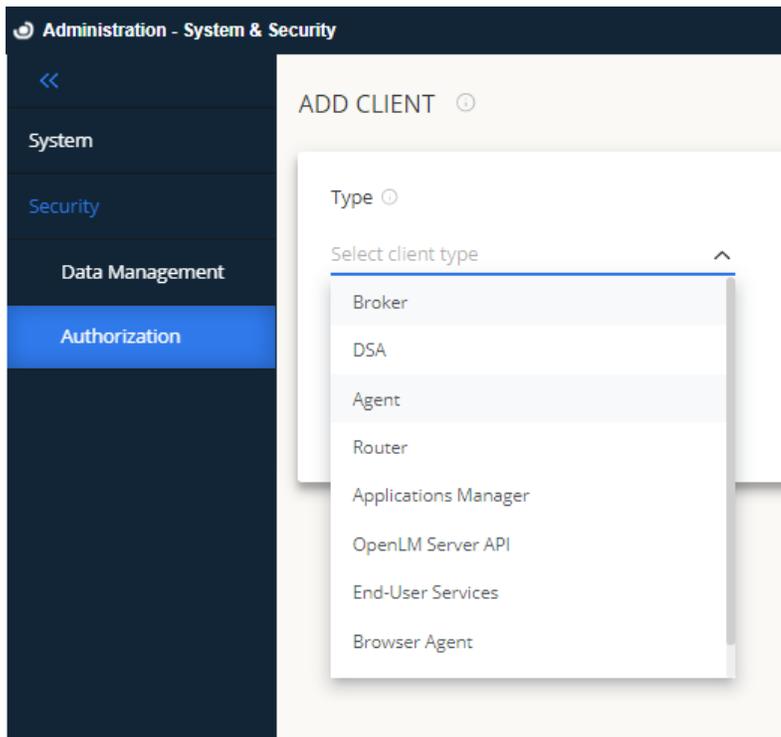
セキュリティモードでの各コンポーネントの構成

Identity Serviceで **OpenLM Server** セキュリティ モードを有効にした後、接続された各コンポーネントには**Client ID** と**Secret Key (Authorization.jsonファイル)** が必要です。

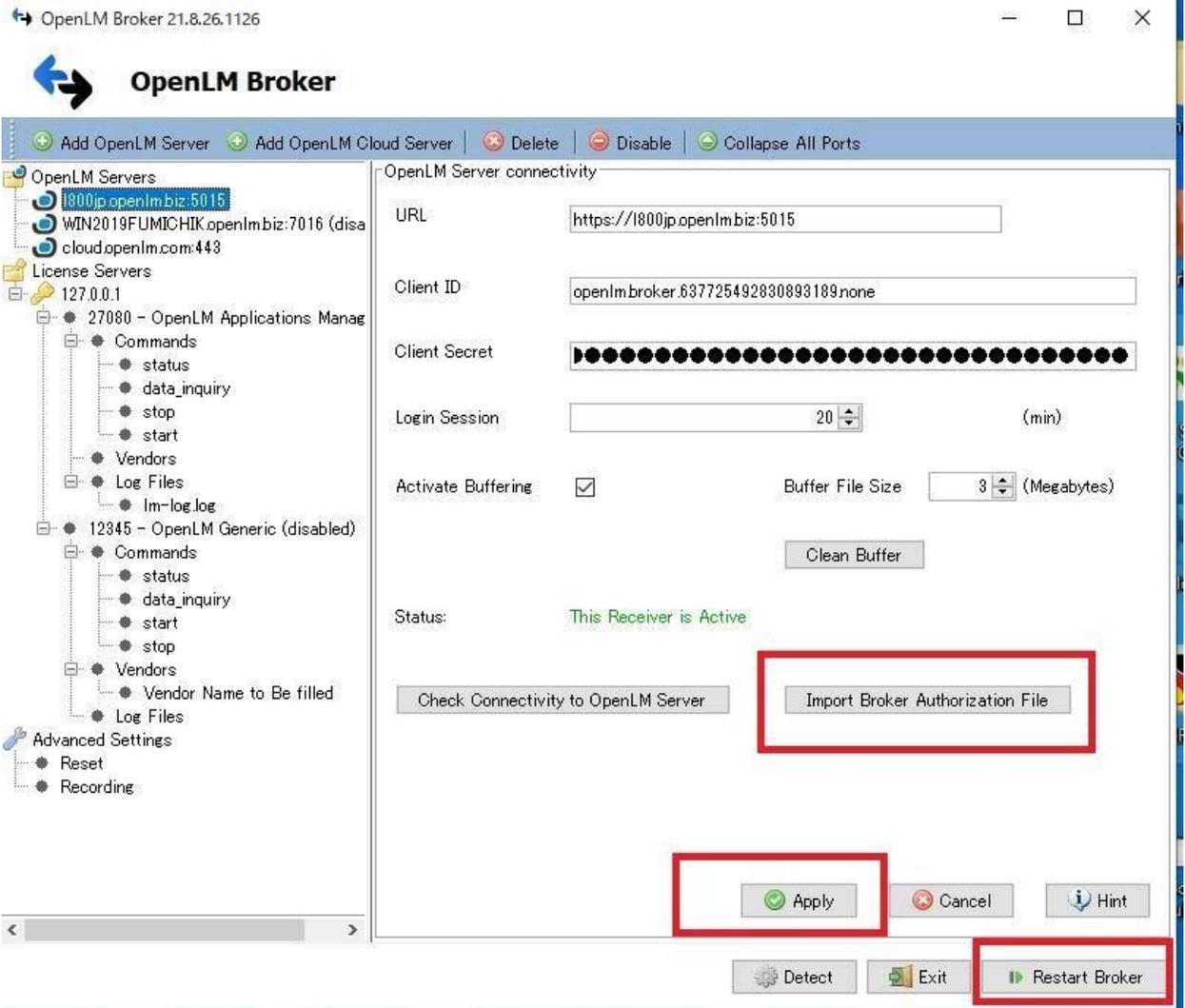
1. EasyAdmin →セキュリティとサービス→セキュリティタブを開く→承認タブ

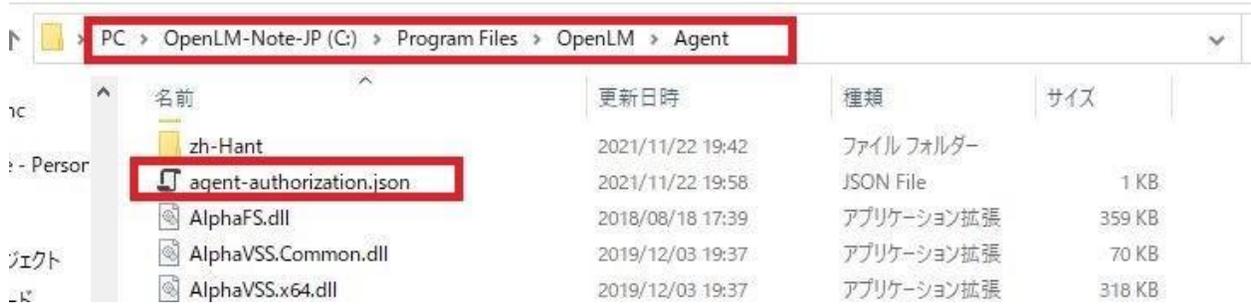
Client Type	Client Description	Date Created	Client ID
<input type="checkbox"/> Broker	TEST	2021-11-15T05:01:23.097032Z	openlm.broker.637725492830893189.n...
<input type="checkbox"/> DSA	TEST	2021-11-15T05:01:38.46667Z	openlm.dsa.637725492984646454.none
<input type="checkbox"/> Applications Manager	TEST	2021-11-15T05:01:57.358771Z	openlm.appmanager.client.6377254931...
<input type="checkbox"/> Router	TEST	2021-11-15T05:02:28.926441Z	openlm.router.637725493489240109.no...
<input type="checkbox"/> Agent	TEST	2021-11-15T05:02:45.203215Z	openlm.agent.637725493652013578.no...
<input type="checkbox"/> End-User Services	TEST	2021-11-15T05:03:18.598257Z	openlm.eus.637725493985963839.none
<input type="checkbox"/> OpenLM Server API	TEST	2021-11-15T06:56:55.630253Z	openlm.server.api.63772556215575575...

2. 使用している各コンポーネントを追加し、authorization .json ファイルをダウンロードします。



3. 各コンポーネントのインストール中に .json ファイルをインポートするか、インストールフォルダーに配置します。(これは各コンポーネントによって異なります)







4. OpenLM Serverおよび Identity Serviceサービスを実行している Windows サービスで各サービスを再起動します。

OpenLM Serverは、各コンポーネントからClient ID とSecret Key情報を読み取る必要があることに注意してください。読み取れない場合、お互いに通信できません。

トラブルシューティング

1. EasyAdmin (OpenLM Server) やDSS UI が開かない場合は、appsettingsファイルでClient ID、Secret Key、セキュリティ値が有効になっているかどうかを確認してください。Identity Serviceでセキュリティモードをオフにして、もう一度オンにして、Client IDと Secret Keyをリセットできます。新しいセットで試してみてください。
2. Reports SchedulerとServiceNowが動作していない場合は、#1 と同じ事を試してください。
3. EasyAdmin (OpenLM Server) や DSS UI が開かない場合は、Identity Service UI 設定でFQDN を使用しているかどうかを確認してください。
4. 各コンポーネントのインストールフォルダのログを確認すると、Error INVALID CLIENT が表示されることがあります。これは、Client ID とSecret Keyに問題がある事を意味します。#1 と #2 をお試しください。
5. OpenLM server および Identity Serviceのサービスが他のコンポーネントよりも後に開始された場合、Client ID および Secret Keyは各コンポーネントからロードされません。OpenLM Serverおよび Identity Serviceのサービスを再起動してください。
6. Identity Serviceのポートが他のアプリケーションと競合していないことを確認してください。

7. Identity Serviceに独自のデータベースがあり、接続されていることを確認してください。OpenLM Server データベースに接続しないでください。
8. OpenLM Serverが Identity Serviceセキュリティモードが有効の状態では起動しない場合、OpenLM Serverのappsettings.json ファイルのEnableSecurityに対してFalseを設定し、Identity Serviceのappsetting.jsonファイルでOpenLM Server URL が示されているセクションの EnabledにFalseを設定します。変更を保存します。両方のサービスを再起動し、UI から再設定します。